

## 食文化創造都市にいがた推進計画 平成 29 年度進行状況報告書

平成 30 年 7 月 食と花の推進課

### ○本計画について

「食文化創造都市にいがた推進計画」は、食で選ばれるまち・にいがたを目指すため、本市の強みである食や食文化の素晴らしさに目を向けると共に、これらを産業の活性化や交流の拡大などにつなげることを目的に平成 29 年 3 月に策定された計画。

本報告書は、本計画の達成状況を委員へ報告、点検・評価頂くことを目的に作成された。進行状況の報告は 1 回目。

### ○本計画の進行状況に関する参考指標について

本計画は各事業毎に達成目標を設定し、達成状況を調査しているが、計画全体の社会への影響等を確認するため参考指標を設定し、毎年度数値を調査することとする。

なお、参考指標は、関連計画の成果指標から選定した。

### ○各施策別・平成 29 年度評価別の事業数について

計画策定時（平成 29 年 3 月）の事業数は 86 事業、平成 29 年度に実施した食文化関連事業は 74 事業だった。また、平成 30 年度実施予定の事業数は 68 事業である。（それぞれ複数取組にまたがる重複を含む）。各施策別の事業数は表 1 の通り。

平成 29 年度評価別では、A:目標を上回った事業が 20 事業、B:目標通り実施できた事業が 31 事業、C:目標を達成できなかった事業が 23 事業だった。評価別の事業数は表 2 の通り。

表 1 事業数(各施策別)

施策 No. (将来像-施策)	施策名	事業数 (計画策定時)	事業数 (H29 実績)	事業数 (H30 計画:参考)
1-1	食への理解の促進	15	13	15
1-2	食を生かした健康づくり	8	5	4
1-3	食文化の次世代への継承	13	9	7
<b>将来像 1 小計</b>		<b>36</b>	<b>27</b>	<b>26</b>
2-4	地域の魅力の向上	11	11	11
2-5	ガストロノミーツーリズムの構築	5	5	5
2-6	他都市への発信と都市間連携	5	4	5
2-7	国際交流の促進	6	6	4
<b>将来像 2 小計</b>		<b>27</b>	<b>26</b>	<b>25</b>
3-8	新たな挑戦への支援	16	14	12
3-9	さまざまな分野への食の活用	7	7	5
<b>将来像 3 小計</b>		<b>23</b>	<b>21</b>	<b>17</b>
<b>事業数計</b>		<b>86</b>	<b>74</b>	<b>68</b>

※計画策定時の事業数は平成 28 年度末の統合・休止事業を含む。

※別紙食・食文化関連事業一覧は 29 年度終了事業・30 年度開始事業を計上しているため、上記合計数とは一致しない。

表 2 事業数(平成 29 年度評価別)

評価	事業数
A:目標を上回った	20
B:目標通り実施できた	31
C:目標を達成できなかった	23
<b>事業数計</b>	<b>74</b>

※施策 1~9 の合計値。

○各施策の進行状況

将来像1 食を通じて「人」がつながり活気あふれる元気なまち

施策1	食への理解の促進
主な取組	料理教室「シェフの日」、新潟発わくわく教育ファーム推進事業など
進行状況	本施策では、地産地消や食育教育など、学校・市民団体・小学生等を対象にした事業を継続して進めている。「新潟発わくわく教育ファーム推進事業」では、市内全小学校において「アグリ・スタディ・プログラム」を実施しており、児童らの農業や食への理解の向上を促した。また、市民を対象にした事業として「浜で遊ぼう in 南浜」「大河の感謝祭 in 信濃川」を実施し、地元水産物の紹介と魚食普及を推進した。
目標の達成度	平成29年度の事業数13事業に対し、「A:目標を上回った」事業は2事業、「B:目標通り実施できた」事業は8事業、「C:目標を達成できなかった」事業は3事業だった。

施策2	食を生かした健康づくり
主な取組	食環境整備事業、新潟市健幸づくり応援食品認定制度など
進行状況	新潟市は全国と比較すると、脳血管疾患および胃がんによる死亡率が高い※。原因の一つとされる食塩の過剰摂取について、保健所が主体となって「食環境整備事業」「ちょいしおプロジェクト」等、様々な減塩の取組を行った。 農業・食品産業では「農産物高付加価値化推進事業」を通じ、機能性に関する科学的な報告がある成分を含む食品や、健康づくりに配慮されている食品に対し、市独自の認定を行った。 <small>※新潟市健康・栄養調査 結果の概要(平成29年3月、保健所健康増進課)より引用</small>
目標の達成度	平成29年度の事業数5事業に対し、「A:目標を上回った」事業は1事業、「B:目標通り実施できた」事業は1事業、「C:目標を達成できなかった」事業は3事業だった。

施策3	食文化の次世代への継承
主な取組	地場産学校給食推進事業、レシピ集の活用など
進行状況	郷土料理や行事食、伝統野菜の栽培など、農村地域で培われた食文化は農村地域の高齢化・人口減少により失われつつある。これを次世代へ伝えるため、食と花の推進課では郷土料理

	<p>のレシピ集をインターネットで公開するなど、食文化の収集・編纂・発信を行った。また、農業活性化研究センターでは、ナスやカブなど伝統野菜の維持・保存を行うとともに、活用に向けた調査・研究を行った。</p> <p>そのほか、潟の自然環境や文化などの調査・研究を支援する「潟の魅力創造市民活動補助金」では、鳥屋野潟の湖上で水耕栽培農業を行うと同時に、水中根による稚魚の棲家づくりを狙う「環境浮棚・新潟オーシャン事業実験プロジェクト」が実施され、事業で収穫された野菜は鳥屋野潟近隣のレストランで提供されるなど、潟と関わる新潟の文化を現代的な手法で甦らせる試みが行われた。</p>
目標の達成度	平成 29 年度の事業数 9 事業に対し、「A:目標を上回った」事業は 1 事業、「B:目標通り実施できた」事業は 6 事業、「C:目標を達成できなかった」事業は 2 事業だった。

## 将来像 2 食を通じて「地域」がつながり新たな交流を生み出すまち

施策 4	地域の魅力の向上
主な取組	農家レストランの設置、農業体験観光ツアーなど
進行状況	<p>広大な農地を持つ本市は、各区によって名産品が異なることから、各区が主体となって地域の名産品の PR を行っている。北区産業振興課では「キテ・ミテ・キタク とまとキャンペーン」として大玉トマトのラジオ CM を、西区農政商工課ではすいか・茶豆・新米・大根・ねぎの販売促進のため「農業まつり」をそれぞれの品目の収穫適期に行い、消費拡大・認知度向上に積極的に取り組んだ。</p>
目標の達成度	平成 29 年度の事業数 11 事業に対し、「A:目標を上回った」事業は 1 事業、「B:目標通り実施できた」事業は 5 事業、「C:目標を達成できなかった」事業は 5 事業だった。

施策 5	ガストロノミーツーリズムの構築
主な取組	レストランバスなどを活用したコンテンツ開発など
進行状況	<p>「レストランバスなどを活用したコンテンツ開発」では、自然や歴史的景観などの地域資源と、農業体験、酒蔵見学などのさまざまな体験メニューを組み合わせ、本市の食文化を一体的に体験できる新しい観光コンテンツを開発した。</p> <p>「観光客おもてなし態勢促進事業」では、本市への誘客につ</p>

	なげるため、市内への来訪者動態等調査を行い、その結果を観光セミナーを開催し広く共有した。
目標の達成度	平成 29 年度の事業数 5 事業に対し、「A:目標を上回った」事業は 2 事業、「B:目標通り実施できた」事業は 0 事業、「C:目標を達成できなかった」事業は 3 事業だった。

施策 6	他都市への発信と都市間連携
主な取組	食と花の銘産品事業、特産品・土産品の振興など
進行状況	<p>特産品・土産品の振興として、新潟市産品等の販路拡大を図るとともに、本市への誘客につなげるため、集客力のある全国各地のデパートにて「新潟の観光と物産展」を開催した。</p> <p>また、「農産物販路拡大支援事業」では、生産者や生産団体と実需者とのマッチングを行ったほか、卸や小売業者等と連携し、大都市等でのプロモーションを行った。</p>
目標の達成度	平成 29 年度の事業数 4 事業に対し、「A:目標を上回った」事業は 1 事業、「B:目標通り実施できた」事業は 1 事業、「C:目標を達成できなかった」事業は 2 事業だった。

施策 7	国際交流の促進
主な取組	食の国際見本市「フードメッセ in にいがた」など
進行状況	<p>都市ブランドの構築を図ると共に、本市の拠点性を高めていくために、本州日本海側最大の食の国際見本市「フードメッセ in にいがた」を開催し、食関連事業者に対して商談の場を提供した。</p> <p>また、輸出の観点では、海外飲食店やショッピングセンターなどで食材プロモーションを実施すると共に、関係機関が実施する商談会やセミナーへの事業協力を行い、実需者とのマッチングなど輸出促進につながる機会を創出した。</p>
目標の達成度	平成 29 年度の事業数 6 事業に対し、「A:目標を上回った」事業は 4 事業、「B:目標通り実施できた」事業は 1 事業、「C:目標を達成できなかった」事業は 1 事業だった。

### 将来像 3 食を通じて「産業」がつながり新たな魅力を創造するまち

施策 8	新たな挑戦への支援
主な取組	食のマーケットイン支援事業、6次産業化サポート事業など
進行状況	農業活性化研究センターの「6次産業化サポート事業」では、

	<p>6次産業化・農商工連携に取り組む農業者などを対象に加工機械・施設などの導入および販売拡大への支援を行った。</p> <p>また、北区産業振興課では「『しるきーも』特産化事業」、江南区産業振興課では「梅の里産地活性化事業」など、産地毎に特産品のブランディングに取り組んだ。</p>
目標の達成度	<p>平成29年度の事業数14事業に対し、「A:目標を上回った」事業は4事業、「B:目標通り実施できた」事業は7事業、「C:目標を達成できなかった」事業は3事業だった。</p>

施策9	さまざまな分野への食の活用
主な取組	12次産業化推進事業、農・福連携事業など
進行状況	<p>ニューフードバレー特区課では、本市が有する豊富で多様な田園資源を子育て・教育・交流などの分野に活かす12次産業化の推進を図るため、12次産業化の普及・啓発に向けた取組を実施した。</p> <p>また、スポーツ振興課が実施する「新潟シティマラソン」「新潟シティライド」では、地域の食材を使用したエイド食を提供し、参加者へ本市の食の魅力を発信した。</p>
目標の達成度	<p>平成29年度の事業数7事業に対し、「A:目標を上回った」事業は4事業、「B:目標通り実施できた」事業は2事業、「C:目標を達成できなかった」事業は1事業だった。</p>

#### ○平成29年度の進行状況の評価および所見

A:目標を上回った事業・B:目標通り実施できた事業の合計が、本計画全体の事業数に対し73%であることから、本計画に名前を連ねる事業がおおむね計画通りに進行していることが分かった。

施策毎の事業数を見ると、食関連事業や異業種連携への支援などが該当する「新たな挑戦への支援」、市民を対象にした事業が該当する「食への理解の促進」、各区の取組などが該当する「地域の魅力の向上」の事業数が比較的多く、本市の食文化関連事業は市民への情報発信や産業分野への支援に重点を置いていることが分かった。他方、市外への連携・情報発信を行う「他都市への発信と都市間連携」「ガストロノミーツーリズムの構築」「国際交流の促進」などは比較的小さい傾向が見られたため、対外的な情報発信を強化していく必要があると思われる。また、各区の取組においては区毎の事業数に偏りが見られることから、バランスよく各区の魅力を強めていく取組が必要である。

本市の観光入込客数は平成22年度以降<sup>※1</sup>増加傾向にあること、また県外居住者の新

潟市への旅行目的は「地元の美味しいものを食べる」がトップであることから<sup>※2</sup>、今後も情報発信に努めると共に、他施策の事業と連携し、訪問者の食体験の充実化を図ることが肝要である。

※ 1 新潟県観光入込客統計調査(平成 22 年 4 月期から観光庁が定めた「観光入込客統計に関する共通基準」に基づき新潟県が実施)による

※2 新潟市来訪者動態等調査報告(平成 29 年度, 観光政策課)による